

区

小学校

先生

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

**研修会記録**

第7号

令和 2年 1月 8日

横浜市小学校教育研究会

会長 榮 秀 之

横浜市小学校社会科研究会

会長 新 井 篤 志

同 学年部長 小 泉 斎

【提案日時】

12月 4日 (水)

授業者 小島 早紀 先生 (山元小)

【会 場】

横浜市立山元小学校

司会 村松 秀憲 先生 (茅ヶ崎小)

記録 明神 祐生 先生 (神奈川小)

【授業者の自評】

山元小 小島 早紀 先生の授業

単元名

「お買い物アンテナで探そう スーパーマーケットのひみつ～まちの冷蔵庫を目指すEスーパー～」

- ・お年寄りの利用客に着目させるため、最初はお惣菜の分量を取り上げる予定だったが、お客さんの声を取り上げたというお店の経験からキャベツを取り上げることにした。
- ・学習問題につながる言葉を児童が発言してから、すぐには取り上げずに話し合いを流すことを意識したが、その点はどうだったか。
- ・「お店の人はキャベツの大きさにまでこだわってられない」という児童の発言に対する語り合いはどうだったか。

【成果】

- ・児童が友達の発言をよく聞いていた。
- ・ほとんどの児童が発言していた。
- ・学習問題につながる発言が出たときに、しばらく流したことで、その時間を使って児童は考えを深めることができた。
- ・とめどなく発言できる雰囲気よかった。
- ・実物資料（キャベツ）の周りに人だかりができていたのは、事象に本気でめりこんでいるからこそのだと感じた。
- ・これまでの手立て、資料が本時へとつながっていた。
- ・教材研究を重ねた結果、キャベツを選んだのは適切だった。
- ・めあてに沿った話し合いができていた。
- ・身近な地域の問題として考えられていてよかった。
- ・実物資料（キャベツ）が出てきたときや、お店の人の言葉の資料が出てきたときの児童の反応がよかった。
- ・お店の人の言葉の資料に、あえて理由まで書かなかったことで、ふりかえりの際に児童が自分の言葉で考えることができた。

### 【課題】

- お客さん側の視点、お店側の視点を板書でもう少し明確にできるとよかった。
- 「1/4サイズのキャベツはほしい人がいないから、お店に置いていない」という発言を全体に広げて考えられるとよかった。
- 「こだわってられない」という発言には、「お客さんのことを考えていないから」なのか、「他にやることが多いから」なのか、児童の考えにズレが生じていたので、それを埋める必要があった。

### 【質問】

- 「キャベツの大きさにまでこだわってられない」という児童の発言はお店側の立場からの発言だったが、児童はお店の人の仕事についてどれだけ知っていたのか。  
→店員に質問する場面はあった。「バックヤード」をキーワードにこれからの授業でお店の人の仕事に注目する予定。
- 「キャベツを半分にするとお金がかかる」という児童の発言の背景は何なのか。  
→一気に買うとお得、サイズが大きいものを買うとお得、という事実に基づいて発言した。
- 「多めに買って余ったら捨てればいい」という児童の考え方に共感したが、どうすればその児童の考えを汲み取れたらだろうか。  
→授業者として「余ったら捨てる」という考え方はよくないと捉えていたので、汲み取ることは難しかった。
- 普段からどのような声掛けができれば、こんなにも語り合える授業になるのか。  
→4月から自分の考えと友達の考えをつなげている児童のノートの価値づけを徹底してきた。
- 児童はお客さんのニーズについて考えられていたか。  
→半数の児童は「お客さんのため」という視点でふりかえりを書くことができていた。

### 藤が丘小校長 高畠 聡 先生より

- 1/4サイズのキャベツがお店に置いていない理由について、たくさん切るほど新鮮さや人件費などの面でコストがかかるということがわかるような資料があるとよかった。
- お店の人の言葉の資料は授業の最後に出して終わるという方法もあった。

### 北部学校教育事務所 大滝 文平 先生より

- 授業者がおもしろいと思ったことが、児童の学びにつながっていた。
- 山元小周辺の地域の特性について、児童はあまりわからないまま発言していたり、基盤となる知識は少し足りなかったりしたが、探究心や想像力をはたらかせて発言している児童の姿がよかった。
- 資料を見せる技術についてみんなでこれから考えていく必要がある。
- 児童の学びの姿から、指導案通りにひっぱるのではなく、児童の学びに沿っていくという判断がよかった。

### 早稲田大学教授 藤井 千春 先生より

- お年寄りのニーズに対応することで、Eスーパーは今でも地域に残っているというところから、地域の実態やお店の戦略が見えてくる。
- 児童がまち探検等で見えてきた地域の姿に基づく発言がもう少し出てきてもよかった。
- 「話し合える」だけでなく「聞き合える」からこそ考えをつなげることができ、児童の考えが自然に共有されていくので、教師がひっぱらなくても児童が自ら学んでいく授業が成立していた。